

◆ IRT型学力・学習状況調査による「学力」の把握

※IRT…「学力」を数値化する測定理論（項目反応理論）

- 作問した全ての問題を、専門家により「困難度」「識別力」で分析。学習の理解や習熟の状況を示した42の段階を「学力レベル」として、個々の変容を丁寧に把握。

「学力レベル」段階表

レベル14段階 × A B C 3段階 = 42段階

↑ 難

「学力レベル」
横浜市学力・学
習状況調査にお
ける、学習の理
解や習熟の状況
を示した42の段
階。概ねピンク色
の部分を出題。

↓ 易

		小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
42	レベル1 4								
41									
40									
39	レベル1 3								
38									
37									
36	レベル1 2								
35									
34									
33	レベル1 1								
32									
31	レベル1 0								
30									
29									
28									
27	レベル9								
26									
25	レベル8								
24									
23	レベル7								
22									
21	レベル6								
20									
19	レベル5								
18									
17	レベル4								
16									
15	レベル3								
14									
13	レベル2								
12									
11	レベル1								
10									
9									
8									
7									
6									
5									
4									
3									
2									
1									

図1 横浜市「学力レベル」の42段階表

◆ IRT型学力・学習状況調査の結果

- 2021年と2022年を比較すると約7割程度の生徒が学力の伸びを示している。
- 約3割程度の生徒が昨年と同等または学力の伸びが見られず、伸び悩んでいると考えられる。

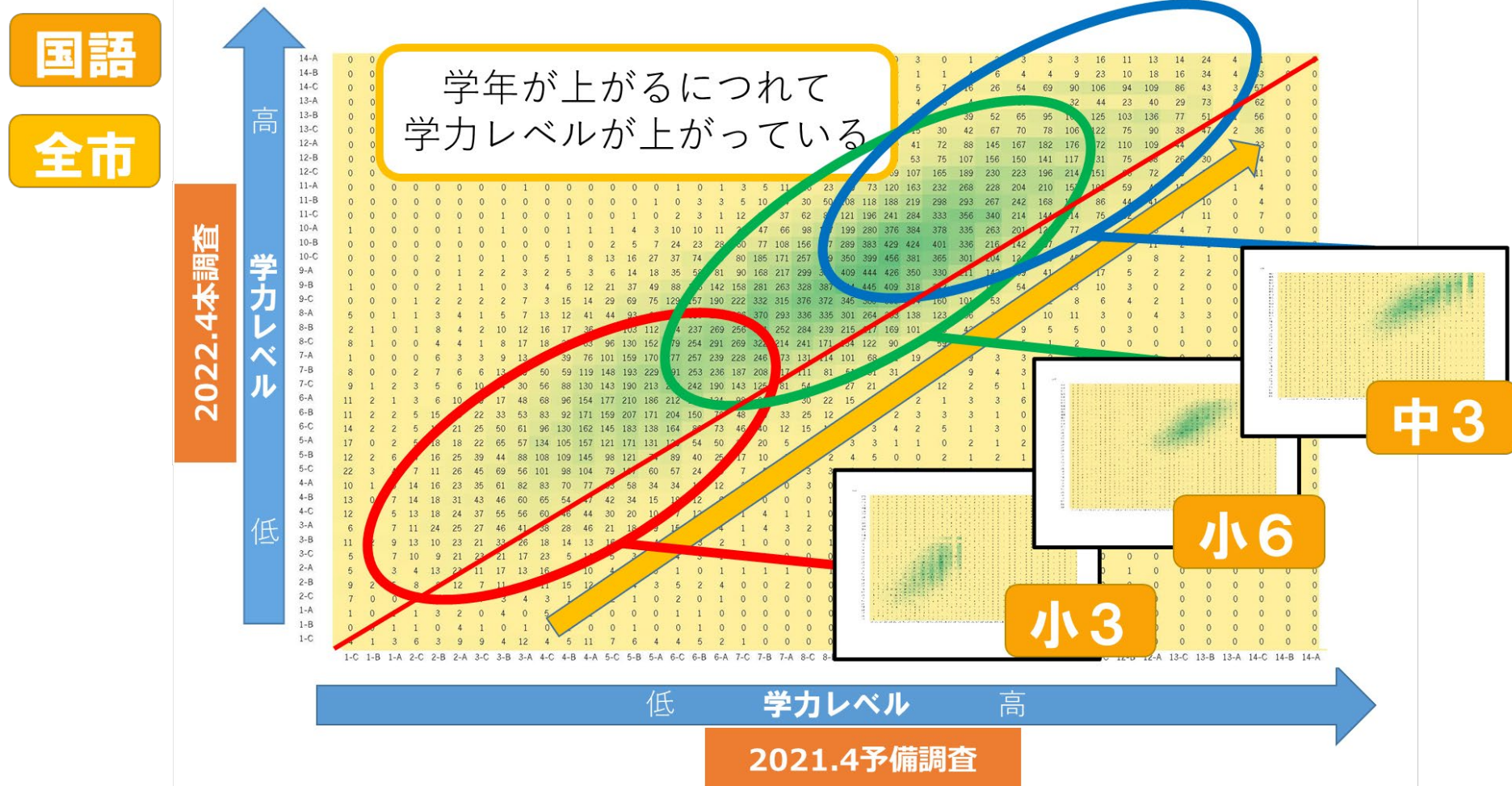


図2 学力レベルの経年分布

◆ IRT型学力・学習状況調査の結果より(教科の伸びの特色)

- 国語と算数・数学の教科別で「学力レベル」を比較すると、算数・数学の方が分布の幅が広い
- 中学校3年生段階で、「学力レベル」が低いところで伸び悩んでいる生徒がいる。

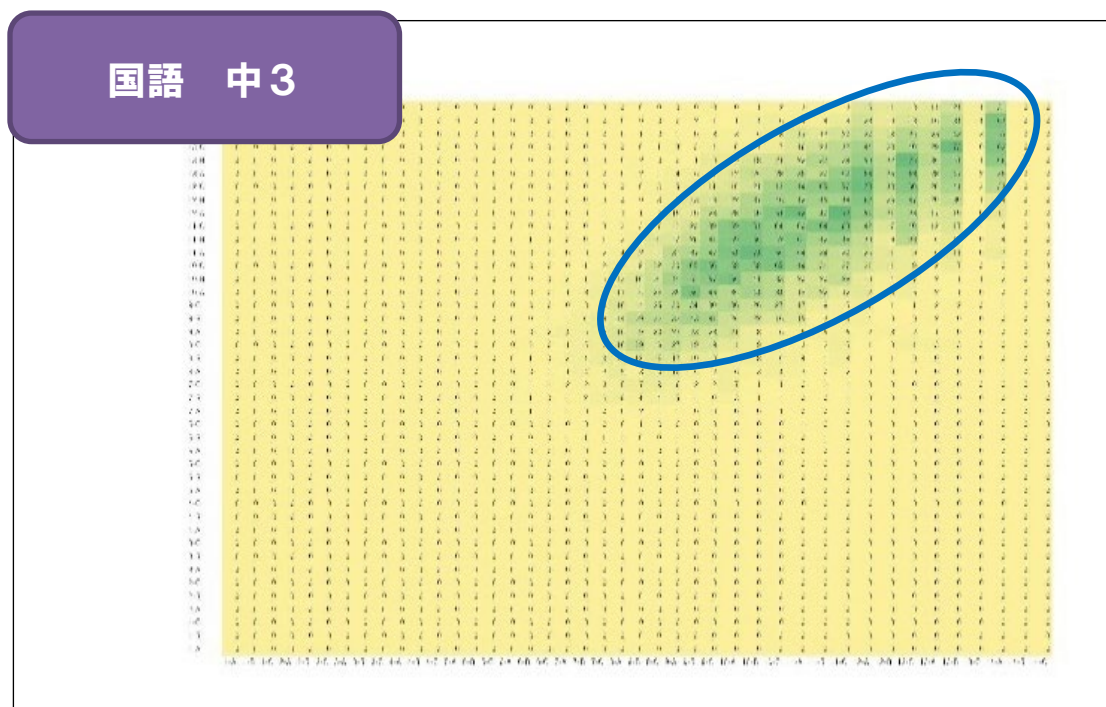


図3 中学校3年生 国語の学力レベルの分布

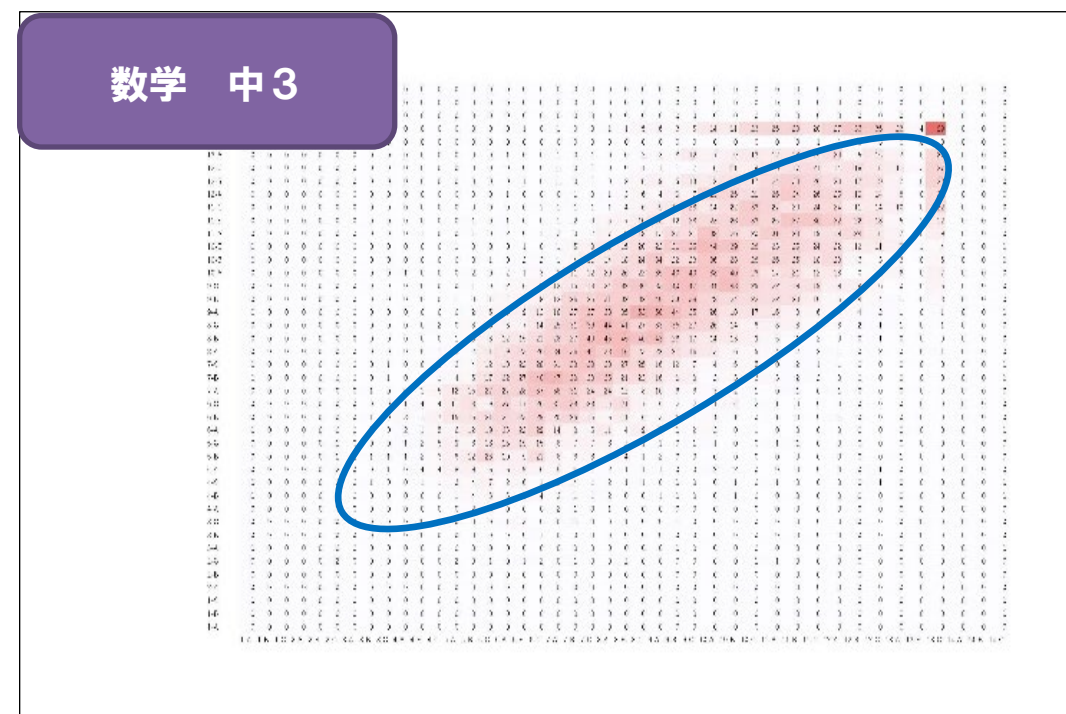


図4 中学校3年生 算数・数学の学力レベルの分布